

- 1 ①軽率 ②貢献 ③遂行 ④犠牲
 ⑤賠償 ⑥派遣 ⑦歓迎 ⑧治療
 ⑨秩序 ⑩徹底 ⑪成就 ⑫複雑
 ⑬名刺 ⑭緩和 ⑮指摘 ⑯抑制
 ⑰静寂 ⑱搬入

- 2 ①絞 ②掲 ③描 ④健 ⑤飾
 ⑥驚 ⑦就 ⑧招 ⑨養 ⑩疑
 ⑪赴 ⑫妨 ⑬滑 ⑭蔽 ⑮操
 ⑯退 ⑰犯 ⑱預 ⑲快 ⑳設

解説 ⑦「就職」は職(仕事)に就くこと。
 ⑰「犯罪」とは罪を犯すこと。

- 3 ①じょうじゅ ②そうさい ③こうじょ
 ④いなか ⑤かわせ ⑥ぞうお
 ⑦かんわ ⑧おもわく ⑨はんれい
 ⑩しょうじん ⑪しせい ⑫わいきょく
 ⑬ぜいじやく ⑭ぜんじ ⑮じゅんしゅ
 ⑯たいよ ⑰なつじん ⑱あいどう
 ⑲ふぜい ⑳げねつ

解説 成就、相殺、緩和、思惑、市井などは書き取りもできるようにしておくこと。

- ⑤消費 ⑥拾得 ⑦油断 ⑧供給
 ⑨義務 ⑩破壊 ⑪相対 ⑫理性
 ⑬抽象 ⑭現実 ⑮特殊 ⑯不足
 ⑰保守 ⑱分解 ⑲冷静 ⑳断絶
 ①ゆくえ ②じゅず ③さみだれ
 ④ざこ ⑤ぞうり ⑥ゆかた
 ⑦いおう ⑧のれん ⑨しぐれ
 ⑩あずき ⑪ときよう ⑫のりと
 ⑬いくじ ⑭だし ⑮みやげ
 ⑯あま ⑰かぐら ⑱せりふ
 ⑲さじき ⑳いざよい
 ①さば ②いわし ③むかて
 ④さんま ⑤かたつむり ⑥くも
 ⑦きつつき ⑧ほどぎす
 ⑨ひばり ⑩うなぎ
 ⑪おみなえし ⑫あじさい
 ⑬コスモス ⑭とかげ
 ⑮つくし ⑯あり
 ⑰そば ⑱かぼちゃ
 ⑲しいたけ ⑳しょうが

- 4 ①とごこお ②おごそ ③つちか
 ④なご ⑤さえぎ ⑥くつがえ
 ⑦ぎぎ ⑧まぎ ⑨いきどお
 ⑩いまし ⑪あらわ ⑫ふる
 ⑬いご ⑭にぶ ⑮うけたまわ
 ⑯おこた ⑰つくろ ⑱むしば
 ⑲つつし ⑳おびや

同音異義語・同訓異字・難読語

(4・5ページ)

- 1 ①ア鑑賞 イ親賞 ウ感傷 工干涉
 ②ア保証 イ補償 ウ保障
 ③ア慎重 イ深長 ウ伸長
 ④ア絶対 イ絶体
 ⑤ア追及 イ追究 ウ追求
 ⑥ア熱 イ暑 ウ厚
 ⑦ア務 イ勤 ウ努
 ⑧ア顧 イ省 工納
 ⑨ア治 イ修 工納
 ⑩ア捕 イ執
 ⑪ア聞 イ効 工納
 ⑫ア凶 イ測 工納
 ⑬ア凶 イ測 工納

個性とは何か

(8・9ページ)

- 1 ①すた ②真似
 ③画一化 ④克服
 2 ウ
 3 何年も師匠と同じようにしろという教育。
 4 イ
 5 個性は生まれつき誰もが持っているものだから。
 6 エ

解説 2 第二段落で表現されている個性は、

長年の修行を経ても同じにならないことからわかるものである。

3 直前の一文がその教育の具体であるが、それでは一般化されないの、冒頭の「師匠のする通りにしろ」という言葉を用いて答えればよい。

4 「封建」とは「天子・王などが、土地を諸侯などに分け与え領有させること。また、その制度。」で身分制社会のあり方をいう。

5 「遺伝子の組み合わせは、一人一

- 3 ①ア編 イ過 ウ偏
 ②ア坊 イ妨 ウ防
 ③ア検 イ儉 ウ険
 ④ア裁 イ載 ウ載
 ⑤ア侵 イ浸 ウ寝
 ⑥ア挑 イ眺 ウ跳
 ⑦ア講 イ購 工構
 4 ①ずさん ②あいろ ③おういつ
 ④ごびゅう ⑤ささい ⑥げきりん
 ⑦ていさい ⑧しつべい ⑨ちゅうぼう
 ⑩みぞう ⑪はたん ⑫ようせつ
 ⑬ばくろ ⑭ぞうけい ⑮すいどう
 ⑯しもん ⑰いんべい ⑱けねん
 ⑲あつれき ⑳ふつしよく

類義語・対義語・熟字訓

(6・7ページ)

- 1 ①タ ②チ ③ソ ④ク ⑤ケ ⑥オ
 ⑦カ ⑧コ ⑨エ ⑩サ ⑪シ ⑫ス
 ⑬セ ⑭ウ ⑮テ ⑯ト ⑰ア ⑱イ
 ⑲ツ ⑳キ
 2 ①損失 ②内政 ③実在 ④形式

人違います。それが個性なのです。」とある。したがって、個性は先天的に存在するに決まっているので、その存在については安心できるのである。
 6 最終段落の「その意味で、人間は個性を持つと定義していいのです。」と述べているが、「その意味」とは、遺伝子のレベルで皆が違っている、つまり生まれつき個性を持っているということである。

ことわざ・慣用句

(10・11ページ)

- 1 ①子 ②三文 ③生む(産む) ④後悔
 ⑤鼻 ⑥濡れ手 ⑦蜂 ⑧河童
 ⑨馬 ⑩銘
 2 ①オ ②ク ③キ ④イ ⑤カ
 ⑥ケ ⑦ア ⑧コ ⑨ウ ⑩エ
 3 ①足・ウ ②耳・オ ③歯・ア
 ④股・カ ⑤手・イ ⑥鼻・キ
 ⑦舌・エ
 4 ①オ ②ク ③イ ④カ ⑤ア

故事成語・四字熟語

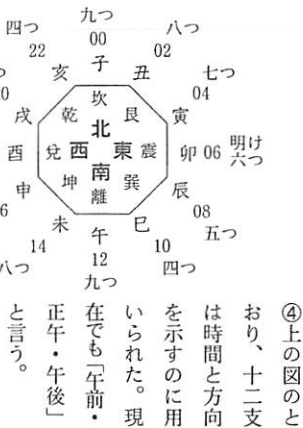
(12・13ページ)

- 1 ①オ ②ア ③ク ④ウ ⑤カ ⑥イ ⑦エ ⑧キ
- 2 ①千里・エ ②吹く・ア ③大海・キ ④馬・カ ⑤双葉・ウ ⑥語らず・オ ⑦勢い・イ ⑧売る・ク
- 3 ①ケ ②ア ③ツ ④セ ⑤オ ⑥エ ⑦キ ⑧ソ ⑨サ ⑩ウ
- 4 ①髪 ②霧 ③夢 ④以 ⑤馬 ⑥承 ⑦令 ⑧厚 ⑨単 ⑩鬼 ⑪道 ⑫寒 ⑬患 ⑭津 ⑮不断 ⑯業

日本人と武士道

(14・15ページ)

- 1 ①壊 ②招 ③ふところ ④拡大



④上の図のとおり、十二支は時間と方向を示すのに用いられた。現正午・午後」と言う。

冬			秋			夏			春		
晩	仲	初	晩	仲	初	晩	仲	初	晩	仲	初
十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月
師走	霜月	神無月	長月	葉月	文月	水無月	皐月	卯月	弥生	如月	睦月
しわす	しもつき	かんなづき	ながつき	はづき	ふみづき	みなづき	さつき	うづき	やよい	きさらぎ	むつき

- 2 武士道
- 3 1 オ 2 イ
- 4 日本は自信を失い、自分の言葉で語るのをやめ、米国型資本主義に軸足を移してその経済や経営のとり入れに懸命であったこと。
- 5 されている
- 6 ウ

解説

2 新渡戸稲造は前の五千円札の肖像に使われているが、彼の著作として最も有名なものが「武士道」である。
 4 潮の流れは「潮流」で「なりゆき」という意味になる。
 5 挿入文の「それも」の指示内容は「社員の個性が輝き、社会の痛みに応えて役立つという誇りがもてる経営で道が開いたこと」を示す箇所となる。したがって、「社員の個性が」とあるように具体的な会社の例、つまりキャノンの例を指すことがわかるので答えはその具体例を示す一文の最後の五字となる。
 6 「物の豊かさや多様な選択肢など

二十世紀が達成した外なる成果は大きい、それも内なる精神風土の耕しがあったからこそ生かすことができる。」という表現から、二十世紀では、物の豊かさや精神は深い関係を持っていないことがわかる。

知っておくべき日本の常識

(16・17ページ)

- 1 ①エ ②ウ ③ウ ④ウ ⑤イ ⑥ウ ⑦エ ⑧イ

解説

①日数が三十日以下の月を「小の月」という。「西向くさむらい」(二四六九十一)と覚える。さむらいは「土」で十一を示す。
 ③五節句とは、一年間の重要な五つの節句。
 一月七日：人日(じんじつ)
 三月三日：上巳(じょうし)
 五月五日：端午(たんご)
 七月七日：七夕(しちせき)
 九月九日：重陽(ちゅうよう)

- 4 ①ウ ②ア ③エ ④ア ⑤エ ⑥イ ⑦ウ ⑧エ

現代語・時事問題

(18・19ページ)

- 1 ①公正取引委員会 ②厚生労働省 ③財政投融資 ④重要文化財 ⑤東京証券取引所 ⑥日本銀行 ⑦日本経営者団体連盟 ⑧日本弁護士連合会 ⑨安全保障 ⑩原子力発電 ⑪国民体育大会 ⑫自動車損害賠償責任保険
- 2 ①シ ②ウ ③カ ④ケ ⑤エ ⑦イ ⑧セ ⑨オ ⑩キ

解説

上の表はぜひ、頭に入れておいてほしい。旧暦は太陰暦で太陰は月のこと。名月は十五夜の月。
 ⑦小春とは、陰暦十月の異名で、暖かな春のような日が続くので言う。
 ⑧麦が熟して収穫する初夏のころ。麦の熟す時を、一般の穀物が実る秋に擬した語。

- 3 エクコ

ア「通り一遍」は、形式的でおざなりであることなでます。「一通り」が正しい。イ「愛嬌を振りまく」が正しい。ウ「押しも押されもしない」が正しい。オ「役不足」は、能力に対して、役目が軽すぎることを。ここでは「力不足」と表現すべき。カ「的を射た」が正解。キ「汚名返上」「名誉挽回」のどちらかでないといけない。「汚名挽回」では「不名誉な評判を取りもどすこと」が大変なことになる。ク「言わずもが

- ①コ ②ク ③サ ④ス ⑤ソ
 ①サ ②イ ③キ ④エ ⑤ヌ
 ⑥ク ⑦ア ⑧ソ ⑨ウ ⑩ケ
 ⑪オ ⑫カ ⑬コ ⑭シ ⑮セ
 ④ ①ウ ②ア ③エ ④イ ⑤オ ⑥カ

高瀬舟

(20・21ページ)

- 1 ①視線 ②かみそり ③絶 ④沈黙
 2 喜助は半年ほどの間、当時のことを幾度も思い浮かべてみたのと、役場で問われ、町奉行所で調べられるその度ごとに、注意に注意を加えてさらって見させられたののため。
 3 目
 4 喜助のしたことが果たして弟殺しと言うものだろうか、人殺しと言うものだろうかという疑い。
 5 納得できない。合点がゆかない。
 6 安楽死

解説 2 「〜のため」とあるから、答えはすぐにわかるだろうが、「〜のと〜のと

のため」とあるように、二つの理由を忘れないように記す必要がある。

- 4 ヒントにも記したが、指示語の指示内容を答える文中に、指示内容が明示されていない指示語を使つてはいけない。
 5 腑が抜ける・ふがいない・ふぬけ・ふぬけるといった言葉に「腑」は用いられている。
 6 患者の意志により患者の生命維持装置をはずしたり激しい痛みを苦しむ患者に劇薬を投与したりすることによって患者が死ぬこと。普通 前者を「尊厳死」、後者を狭義の安楽死として区別する。

日本文学史

(22・23ページ)

- 1 ①ク ②シ ③ア ④オ ⑤ウ ⑥コ
 ⑦カ ⑧セ ⑨イ ⑩キ ⑪ケ ⑫エ
 ⑬サ ⑭ス ⑮ソ

解説 ⑦「大鏡」は作者不詳であるが、藤原道長の栄耀栄華のあり方を中心に描いている。⑮「伊勢物語」の主人公は在る。

原業平がモデルといわれている。これ以外は作品の作者または編者である。

- 2 ①キ ②シ ③ア ④ト ⑤チ ⑥ツ
 ⑦ウ ⑧ス ⑨オ ⑩エ ⑪カ ⑫ク
 ⑬コ ⑭ケ ⑮サ ⑯イ ⑰セ ⑱テ
 ⑲タ ⑳ソ
 3 ①枕草子 ②平家物語 ③土佐日記
 ④徒然草 ⑤夜明け前 ⑥城の崎にて
 ⑦雪国 ⑧草枕
 4 ①ウ・b ②イ・c ③ア・a

文章表現 (1)

(24・25ページ)

- 1 ①通り一過 ↓ 一通り
 ②不肖の息子 ↓ てきの悪い息子
 ③役不足 ↓ 力不足
 ④他山の石 ↓ 見本(手本)

解説 ②「不肖」とは親に似ない愚か者という意味だから、親である自分を自慢してしまうことになる。③役不足とは与えられた役割が自分の力に対して不足しているという意味。

- 2 ①頭 ↓ 首

- ②あご ↓ 鼻
 ③一つ ↓ 二つ

- 3 ①母は、汗をかいて逃げ回る僕を捕まえようとしたり。
 ②チェーンをふたえにし、てくびにかけ。
 チェーンをふたえにして、くびにかけ。
 ③日曜日に万博にいった人が、たくさんいた。
 ④僕は、田中君と佐藤君の家に遊びに行くつもりだ。
 僕は田中君と、佐藤君の家に遊びに行くつもりだ。

- 4 ①末尾 ②あと ③前 ④前 ⑤末尾
 5 ①ウ ②ア ③イ ④エ ⑤ウ

解説 ⑤は「ような」を使わない隠喩(暗喩)である。麦をじゅうたんにたとえてい

- 6 ①ウ ②ア ③オ ④イ ⑤エ

解説 ①「必ずしも」は「ない」と呼応する。
 ②「苦しもうに」の位置が不適切なため、二通りに意味がとれる。③「胸に秘めて」でないとおかしい。④「採集」は採って集めること。④の文は「馬から落馬する」と同じ。⑤「計画はくすことだ」というように結ばなければいけない。

文章表現 (2)

(26・27ページ)

- 1 <解答例>

①青い帽子をかぶっている。腕組みをしている。正面を向いている。黒い鞆を足下に置いている。初老の男性である。腰掛けている。…など。
 ②帽子をかぶり、腕組みをした初老の男性が、足下に鞆を置き、正面を向いて電車に腰掛けています。

解説 ②相手に伝わるように、①で書き出し

- 2 面接などで、よく質問される内容を短い文章にしてみよう。

①の解答例
 ・私の夢は二十年後には自分の経営する店を持つことです。

②の解答例
 ・私の長所は、誰とてもなかよくできることです。
 ・私の長所は、決断力のあることです。

③の解答例
 ・卒業後の進路として私は短大への進学を選びました。
 ・進路を選択することは難しく、今一生懸命に卒業後について考えています。

3 どの題名で書くにしても、まず自分の最も主張したいことを考えよう。次に、そのように考える理由を考えるとよいだろう。日本語の文章は結論を最後にもってくる構成のし方が多いが、慣れないう

国語の研究

高校国語総括

解答書

中部日本教育文化会

敬語・手紙の書き方

(28・29ページ)

ちは最初に結論を述べ、その理由を書けばよい。いちばん悪いのは、結論(主張)が述べられていない文章である。

1 ③⑦⑧⑩

解説 ①「こゝする」は謙譲語。「精算なさってください」が正しい。

②「くられる」は「くなる」で十分などところに二重に敬うくどい表現になる。

④「お目にかかる」は謙譲語なので、自分の父を敬うことになってしまう。

⑤紅茶やコーヒーに「お」を付けるのはよくない。

⑥「ご存じ」は尊敬語だから、「存じ上げています」がよい。

⑨「参って」は謙譲語、お客様を敬うことにならない。

2 ア

解説 拝読は謙譲語。イヤウの言い方を覚え

ておくとよい。

3 イ

解説 アは「いただく」が謙譲語。工は二重尊敬でよくない。

4 エ

解説 当社・弊社は自分の会社について述べる言葉。「御社」は話す時に使い、「貴社」は手紙文などの書類に用いる。「記者・帰社・汽車」と聞き間違えないようにするためという。

5 イ

解説 「冠省」は前略と同じで、ていねいなあいさつを省略する書き出しで、「謹白」は改まった場合に用いる結語である。他の組み合わせは正しいのでよく覚えておこう。

6 イエオキ

解説 ア「先生」ですでに敬っている。

ウ「御中」は会社や学校などの組織を宛名にする時に用いる。カ「各位」だけで「みなさま」の意の敬称である。

7 ウ

解説

節分を過ぎると春を迎える。「孟冬の候」は十二月の時候の挨拶である。

8 ①ウ ②オ ③イ ④カ ⑤ア ⑥エ